

**令和4年度**

# **施設評価調書**

**施設の名称……青少年海の家**

**所管担当課……教育委員会生涯学習課**

**令和4年7月**

令和4年度	施設名（愛称名）	下田市立青少年海の家	番号	22
-------	----------	------------	----	----

## 設置目的の達成度

### 1 計画(Plan)と実績(Do)

設置目的	青少年の健全育成を図るため					
運営事業名	R2年実績値	R3年目標値	R3年実績値	対前年比	目標達成率	評価
施設総利用者数	10人	2,300人	729人	7,290%	31.7%	E
市内利用者数	0人	460人	93人	-	-	-
設置目的に対する総合評価						E
目的達成度の評価基準	青少年の施設利用の増加が運営目的となるため、年間利用者数を評価基準とした。 評価基準：A=100%以上、B=80~99%、C=60~79%、D=40~59%、E=40%以下					

### 2 現状分析(Check)

運営事業の意義と現状	例年、地元区誘致の教育旅行の研修場所としての利用がほとんどを占めているが、令和2年度においては新型コロナウイルス感染症により教育旅行は中止となった。令和3年度は回復傾向が見られたが、以前のような利用者数までは届いていない。
上記の原因	新型コロナウイルス感染症による利用者減少。（※感染拡大防止のため7月26日～9月30日まで臨時休館。） 平成24年4月より、施設の耐震性を考慮し宿泊制限を実施。

### 3 次年度以降への改善点(Action)

具体的な改善方策	地元区との協働により施設の良好な管理と有効利用に努めたい。		
R4年度運営事業と目標値	運営事業名	R4年度目標値	備考
	施設総利用者数の増加	1,800人	過去5年間の実績値の平均より算出
	市内利用者数の増加	390人	過去5年間の実績値の平均より算出

※参考 前年度までの運営事業の実績値と評価 \*上欄=目標値、下欄=実績値

運営事業名	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
総合評価	D	C	D	E
施設総利用者数	4,100人	4,100人	4,100人	2,300人
	3,195人	3,021人	2,288人	10人
市内利用者数	950人	950人	950人	460人
	556人	615人	730人	0人

令和4年度	施設名（愛称名）	下田市立青少年海の家	番号	22
-------	----------	------------	----	----

## 効 率 性

### 1 計画(Plan)と実績(Do)

効率性指標		R 2 年実績値	R 3 年目標値	R 3 年実績値	対前年比	目標達成率
①利用単位 当たり経費	A 施設総利用 者数等	10 人	2,300 人	729 人	7,290.0%	31.7%
	B 年間経費 (除く収入)	735,291 円	633,771 円	577,198 円	78.5%	109.9%
	B/A	73,529.10 円	275.55 円	791.77 円	1.1%	34.8%
②光熱水費		50,706 円	55,000 円	77,393 円	152.6%	71.1%
③消耗品費		29,656 円	12,000 円	18,700 円	63.1%	64.2%
効率性指標の考え方等		施設総利用者数：会議室等利用者（教育旅行、各種研修。地元区利用、目的外使用） の実数を集計した。 目標値 A：過去 5 年間の最大利用者数 目標値 B：年間経費にかかる予算額（支出＋職員人件費の合算） 目標値②③：当該年度の効率性の目標値（光熱水費は集落排水含む）				

### 2 現状分析(Check)

効 率 性 の 現 状	R 2 より管理業務委託（120,000 円／年）、光熱水費、消耗品費とも必要最小限で運営している。
----------------	--

### 3 次年度以降への改善点(Action)

具 体 的 な 改 善 方 策	施設利用者へ節水・節電の呼びかけを行い、効率性の向上を目指す。		
R 4 年度効率性 の 目 標 値	①利用単位当たり経費 B/A	313.02 円	年間経費（除収入・R 4 年度予算）／利用者 数目標値（1,800 人）
	②光熱水費 *含排水処理施設使用料	53,000 円	当初予算額
	③消耗品費	30,000 円	当初予算額

※参考 前年度までの効率性指標

効率性指標		H30 年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度
①利用単位 当たり 経費	目標値	4,100 人	4,100 人	3,700 人	2,300 人
	A 実績値	3,021 人	2,288 人	10 人	729 人
	B 実績値	627,069 円	895,523 円	735,291 円	577,198 円
	B/A	207.57 円	391.40 円	73,529.10 円	791.77 円
	対前年比 (A)	94.6%	75.7%	0.4%	7,290.0%
	目標達成率	73.7%	55.8%	0.3%	31.7%
②光熱水費 *含排水処理施設使用 料	目標値	84,000 円	84,000 円	70,000 円	55,000 円
	実績値	60,440 円	54,155 円	50,706 円	77,393 円
	対前年比	96.6%	89.6%	93.6%	152.6%
	目標達成率	139.0%	155.1%	138.1%	71.1%
③消耗品費	目標値	13,000 円	13,000 円	12,000 円	12,000 円
	実績値	0 円	0 円	29,656 円	18,700 円
	対前年比	—	—	—	63.1%
	目標達成率	—	—	40.5%	64.2%

令和4年度

施設名（愛称名） 下田市立青少年海の家

番号 22

4 その他の指標

	区 分	説 明	単 位	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度
受益者負担 の適正性	①使用料原価	1 m <sup>2</sup> 1 時間当たりの原価	円	0.0608	0.0582	0.0480
	②稼動割原価率	年間経費を年間収入で賄えない比率	%	8,822.89	2,5181.20	8,061.42
	③ 1 m <sup>2</sup> 1 時間 適正使用料	① × ②	円	5.364	14.655	3.869
	④ 現行 1 m <sup>2</sup> 1 時間使用料 の平均	—	—			
	⑤適正化計画	—				

【算出式】

① 1 m<sup>2</sup> 1 時間当たりの原価 = (人件費 + 物件費) ÷ 総面積 ÷ 年間使用可能時間

② 稼動割原価率 (年間経費を年間収入で賄えない比率) = 年間経費 ÷ 年間使用料収入

③ 1 m<sup>2</sup> 1 時間適正使用料 = 1 m<sup>2</sup> 1 時間当たりの原価 × 年間経費を年間収入で賄えない比率

運営に掛か る税負担 (市民負担)	年度		R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度(予算)
	人口 (4 月 1 日 : 人)		21,492	21,080	20,734	20,287
	人口 1 人あ たり (円/人)	運営経費	31.77	24.20	17.19	18.93
年間総経費		41.20	34.74	27.49	26.15	

\* 人口 1 人あたりの運営経費 : 運営経費 (支出合計) / 人口

\* 人口 1 人あたりの年間総経費 : 下田市負担年間総経費 (支出 + 職員人件費 - 収入) / 人口

令和4年度

施設名（愛称名） 下田市立青少年海の家

番号 22

### 利用者満足度調査

実施の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	調査の方法		H 年度調査数	件
○貸館利用者向け					
1 調査結果					
設問	回答種類	H 年度回答数	H 年度回答数	H 年度回答数	
	1 2 3				
	1 2 3				
	1 2				
	1 2				
	1 2				
※今年度寄せられたクレーム等					
2 調査結果から読み取れること					
3 次年度以降への改善点					

### 施設修繕計画及び備品購入計画

破損年度	全ての破損した箇所・備品名	経費見積	修繕・買換等 予定年度	備考（修繕済年度等）
—	耐震診断・補強計画・実施設計策定		未定	
—	耐震補強（大規模改修）工事・監理		未定	
※今後想定される維持管理事項				

令和4年度	施設名（愛称名） 下田市立青少年海の家	番号 22
-------	------------------------	----------

### 管理運営上のその他評価項目

当該施設の必要性 廃止、休止等の可能性 施設の設置目的変更の可能性	<p>教育旅行の研修の場として、地元区から施設存続の強い要望がある。 施設の海拔はおおよそ4mで、海岸から約200mの地点に位置することから、大規模地震に伴って津浪が発生した場合には大きな被害が想定される。</p> <p>* 平成24年4月からは、災害への迅速な対応が困難であるとの理由から、夜間の利用（宿泊）を制限している。</p> <p>昭和5年(1930)に建設された現存する下市内最古の学校建築建物（旧登自尋常高等小学校）で、大正・昭和初期の木造校舎の原型を留めている好例として、地域の教育史・建築史上、その価値を重視する声がある。静岡県の近代化遺産候補となっており、文化財としての活用も考えられる。</p>															
民間による管理運営の可能性 今後の管理運営主体の見込み 行政関与の妥当性	<p>「公の施設の管理運営等に関するガイドライン」による施設の位置付け 運用方針：非公募タイプ（福祉の向上、学術・文化・地域振興などの必要性から設置された施設で、管理運営に対する経験やノウハウが極めて重要とされる施設） 位置付：一定区域内の学術・文化振興等を目的にしている施設、地域コミュニティの育成などのために設置されている施設 分類：タイプ3（必要最小限度での市の直営、地縁団体による指定管理または譲渡、廃止） 管理運営の主体を検討する前に、大規模災害対策も含め、施設のあり方について根本的な検討を行う必要がある。</p>															
施設の管理運営と経費の妥当性	現状、必要最低限の経費で運営されている。今後、公の施設として維持するならば、耐震化や避難路の整備等、大規模な改修費用が必要となる。															
施設の性質や実費経費からみた受益者負担の妥当性	近隣の事例や施設の規模・状況からみて妥当な金額と考えられる。															
その他の管理運営上の課題	全体として経年劣化が進んでいる。															
【参考】 市内や賀茂郡内の類似施設の管理運営状況等	<p>○西伊豆町営やまびこ荘（M40 建築、旧大沢里尋常小学校） 【宿泊料金（H22 耐震工事、リニューアル実施）】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>素泊まり</th> <th>一泊二食付</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2歳以上小学生未満</td> <td>1,980円</td> <td>4,400円</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>2,530円</td> <td>4,950円</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>2,860円</td> <td>5,280円</td> </tr> <tr> <td>高校生以上</td> <td>3,520円</td> <td>5,940円</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;その他参考&gt; ○熱海市立少年自然の家[姫の沢自然の家]（宿泊利用） 平成31年3月31日 施設廃止 ○（旧）沼津市立少年自然の家 → INN THE PARK（新規施設） （旧）沼津市立少年自然の家は、公民連携のパークリノベーションとして新規施設として再整備された。 ○三島市立箱根の里少年自然の家（宿泊使用） 中学生以下 市内 200円 市外 420円 その他 市内 300円 市外 620円</p>	対象	素泊まり	一泊二食付	2歳以上小学生未満	1,980円	4,400円	小学生	2,530円	4,950円	中学生	2,860円	5,280円	高校生以上	3,520円	5,940円
対象	素泊まり	一泊二食付														
2歳以上小学生未満	1,980円	4,400円														
小学生	2,530円	4,950円														
中学生	2,860円	5,280円														
高校生以上	3,520円	5,940円														

### 令和3年度 実施運営事業内容

運営事業名	事業内容	次年度に向けての改善事項
青少年海の家管理運営事業	青少年海を家の管理運営	施設のあり方について検討

令和4年度

施設名（愛称名） 下田市立青少年海の家

番号 22

**施設の概要**

1 施設名 (愛称名)	下田市立青少年海の家		2 担当課 担当係	生涯学習課 社会教育係				
3 所在地	下田市田牛 217 番地		4 設置年月	昭和 41 年 4 月 昭和 50 年 4 月 1 日開設				
5 総合計画の 位置付け	基本計画の分野	分野 2 子育て・教育						
	施策体系	施策 3 青少年の健全育成						
6 設置目的	青少年の健全な育成を図る							
7 設置根拠	下田市立青少年の家設置及び管理に関する条例							
8 施設の概要	施設の概要	敷地面積 3,361 m <sup>2</sup> 床面積 601 m <sup>2</sup> 木造平家建、切妻造、スレート葺き、下見板張 <sup>へ</sup> 、漆塗						
		【施設の沿革】 昭和 5 年 朝日村立登自尋常高等小学校として建築 昭和 41 年 吉佐美小学校（現朝日小学校）との統合により廃校 昭和 41～50 年 田牛区公民館として利用 昭和 50 年～ 下田市青少年海の家として運用						
	実施事業 の概要	収容能力 48 ベッド 会議室・談話室・調理室・浴室・広場（旧校庭）						
		市内の小・中・高校の児童生徒及び市内青少年団体・社会教育団体等の訓練・研修活動のために設置されている。						
	料金体系	料金	1 宿泊せず施設を使用する場合					
			2 宿泊する場合 *H24.4 月から宿泊使用は不可とした。					
		主な 料金	1 宿泊せず施設を使用する場合					
			種別	単位	昼	夜	昼夜	備考
			会議室	1 回	320 円	530 円	850 円	
			談話室	〃	210 円	320 円	530 円	
調理室			1 人	50 円				
浴室			〃	50 円				
減免 内容		2 宿泊する場合 *H24.4 から宿泊使用は不可						
		種別	単位	金額		備考		
	宿泊料	1 人 1 泊	一般	530 円		入浴並びに毛布 1 枚を 含む。 光熱水費 100 円別途徴収		
			中学生	210 円				
			小学生	100 円				
毛布使用料	1 枚 1 夜	50 円						
(使用料の減免) <b>第4条</b> 下田市立青少年の家設置及び管理に関する条例第 11 条に定める公益上必要と認める使用とは次の場合とする。 (1) 教育委員会が主催し、又は委託する事業に使用する場合 (2) 下田市内の小学校、中学校、又は学区内の高等学校が単独で又は連合して行う教育訓練又は研修のために使用する場合 (3) 教育委員会が認めた社会教育団体が、訓練、研修のために使用する場合 (4) その他特に教育長が適当と認めた場合								
利用料金制度		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無						
施設運営 方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接運営							
	<input type="checkbox"/> 指定管理者制度 →	指定管理者						
<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 →		委託内容		青少年海の家管理業務委託				
直接従事職員	下田市職員数 1 名							

9 市内の類似施設	下田市所有	あずさ山の家(下田市農村体験宿泊施設)					
	民間所有	なし					
10 取得費等の情報 (単位:円)	取得費及び財源内訳		R3年度末残高		(備考) 減価償却の方法 ・定額法 ・残存価 円 ・新設翌年度から償却 ・耐用年数 年		
	土地取得費		土地残高				
	建物取得費		建物減価償却後残高	1円			
	財源内訳						
	国・県支出金						
	市債		市債残高	0円			
	一般財源						
	寄附金等						
物品(*万円以上)			物品減価償却後残高				
11 年間経費等推移 (単位:円)	区 分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度予算	
	収入	使用料	7,550	320	4,560	30,000	
		占用料	2,600	2,600	2,600	2,000	
		一時使用料	0	0	0	1,000	
	収入合計		76,400	2,920	7,160	33,000	
	支出	賃金	120,000	0	0	0	
		需用費	214,499	261,642	107,973	145,000	
		(消耗品)	0	29,656	18,700	30,000	
		(光熱水費)	54,155	50,706	77,393	53,000	
		(集落排水)	11,736	11,880	11,880	12,000	
		(修繕料)	341,708	169,400	0	50,000	
		役務費	56,111	44,806	44,816	47,000	
		委託料	99,000	203,600	203,600	192,000	
		備品購入	0	0	0	0	
	支出合計		682,710	510,048	356,389	384,000	
減価償却費		0	0	0	0		
市債利子		0	0	0	0		
職員人件費		212,813	225,243	220,809	179,443		
年間経費 (支出+職員人件費)		895,523	735,291	577,198	563,443		
下田市負担年間総経費 (支出+職員人件費-収入)		885,373	732,371	570,038	530,443		
備考	○ 人件費は、実額を算出記載(当該年度の人件費総額を按分し、事務量を勘案の上、0.033人工で算出した) ○ 総経費=支出合計-収入合計+職員人件費 ○ H18~21は地元区長に管理人を依頼。H22より市が管理人を雇用。R2より委託。						
12 施設利用状況等の推移	利用状況	利用年度	R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度予算	
		利用者数	市内	730人	0人	93人	390人
			市外	1,558人	10人	636人	1,410人
	合計		2,288人	10人	729人	1,800人	
	参考:利用単位 当たり市負担額		386.96円/人	73,237.1円/人	781.95円/人	294.69円/人	
	算出方法:11欄の「下田市負担年間総経費」÷利用者数						
休館日	なし						
使用時間	昼						